

迷惑なケータイ

～そら見ろ！ マナーは後追いか

西日本新聞社友 相羽 亮

携帯電話が出始めのころ、この欄で「携帯電話はいらない」と主張したら、西島伊三雄さんからさつそく、わが意を得たりと激励のしがきが届いた。

ケータイの今日の普及ぶりは驚くばかりで、不況のなか、この経済現象がどれだけ日本のピンチを救っているかは計り知れない。だが、当時心配し警告した使用者のマナーの悪さは相変わらずだ。

若者ばかりか、いい歳をしたオバサンまでがところ構わぬ傍若無人ぶり。公共の乗り物の中だろうと、大声でわめくように平然と通話している。昔の控えめで謙虚な日本人の姿は今いずこ。なんと不作法で、はしたない振る舞いだらう。便利重宝な文明の機器が出回っても、いつもマナーは後

額縁・洋画材料・デザイン用品
大崎周水堂
(271) 1696

この品のなさは、半世紀のいづころから大手を振ってまかり通るようになったのだらうか。美しい日本語の慎み深い対話は、もう簡単には取り戻せない状況かも知れない。年長者から引き継いできた言葉の儀礼もあつて無きがごときもの。文化庁の「国語に関する世論調査」は、伝来のことわざについて正確な意味を知らぬ人が多い結果を伝えている。

「情けは人のためならず」を「他人に情けをかけるのは、その人のためにならない」と誤解している人が49%、「二姫二太郎」を「子どもは女一人、男二人が理想的」と間違つて覚えている人が34%に上る。日常生活で言葉遣いの乱れを感じる人は90%近くに上ることも判明した。

「情けは人のためならず」は「人に情けをかけると結局は自分のためになる」というのが正解だが、きちんと答えられたのは47%。年代別に見ると、十〜三十代の正解率が32〜36%と低かった。また「二姫二太郎」の意味を「一人目の子どもは女、二人目は男が理想的」と正しく答えたのは61%。男女差が大きく、十代で女性が60%だったのに、男性は38%だった。

この調査では電子メールや携帯電話の使用状況などについても分析。電子メールをふだん使用している割合は平均25・8%。二十歳未満の女性では70・8%に上った。約二万人の高校生が受検した「日本語運用能力検定」で

は、敬語の問題で誤答が続出した。合格はわずか20%で、なかでも敬語が予想以上に使えなくなっているのは、あきれるばかりだ。一例を挙げると、他人に対して「お母さん」と呼ぶのが不自然と思わない高校生が90%もいたのは、驚きである。

福岡工大付属城東高校では新年度の四月から、生徒のあいさつの態度をABC三段階で評価し、成績通知書に書き込むことにした。最低のCを取った生徒は卒業や進級が認められないとする厳しいもの。学校側は「あいさつは生活態度の基本。問題行動が目に見えて減った」と言うが、生徒からは「成績にするのはどうか」と疑問視する声も出ているとか。しかし、あいさつや言葉遣いのイロハは人間関係に必須の行為。私見を言うなら、抵抗があつても本人の成長のため手を緩めてはなるまい。

「ものの言い方が乱暴」「あいさつをきちんとしない」などは顕著な傾向であり、文法的な誤りや敬語の間違いなどにより、コミュニケーションの基

美術工芸品・御茶道具・書画骨董
ART GALLERY 記念品調製・胸像、銅像制作



SEIRYUDO, CO

青 龍 堂

博多上川端冷泉公園前 (291) 6067番
天神西ビル地下 (712) 6068番